

# 迫り来る東海・東南海・南海の巨大地震

前回よりの続き・・・

想定日時2012年12月13日(木) 13時

M9の巨大地震が発生

「加古川では震度5強～6弱程度の揺れを感じた」

## シリーズ「災害への想定」 Story10

前回に続き、災害時要援護者対策を考えます。

さて、阪神淡路大震災の教訓「死者6,434人の内、直接死は約5,500人で、その内9割が15分以内に亡くなった」この事実から、大災害からの生還は「災害因」と言われる災害の原因(地震等)が発生した瞬間から「**15分間を生き延びること**」ができれば、命の灯火は限りなく消えずにすむと考えられます。

では、この「15分」という時間の流れを防災会製作の「**命のライセンス**」に基づき、被災シナリオを想定します。(あなた自身が負傷していない想定)

### 0分：地震発生

- ・「地震!」と自分が認識するのには数秒間が必要
- ・東南海、南海地震による強い揺れは30秒以上続くと予想される
- ・発生の瞬間は自分の身を守ることが最優先
- ・震度5強以上の揺れの中では適切な判断と普段のような自由な行動をとることは不可能
- ・家具の転倒や家財の落下が発生



### 1分後：強烈な揺れは収まる

- ・自分の身の安全を確保しながら、その他の活動が開始される
- ・火の元の確認
- ・もし出火が確認された場合は消火が最優先
- ・出火した場合は、周囲の人や近所の人に協力要請、大声で火事ぶれをする「火事だー!」(消火活動が必要な場合、消火用具用意から消火完了の鎮火確認時間も含め最低10分以上を要する)
- ・家族の安全確認やその場の周囲の人の安全確認
- ・見慣れない光景「物の散乱」を目の当たりにする



### 3分後：連発する余震による強い揺れに襲われる

- ・再び家族や周囲の人の安全確認
- ・もし負傷者が発生した場合には応急処置(物が散乱する中で必要な時間は10分以上を要する)
- ・家具等の転倒で下敷きになっている場合は救出(ひとりで救出が不可能な時は、周囲や近所に助けを求め。必要な時間は未知数)



### 7分後：自分の置かれた状況がやっと把握できる状態

- ・電話機の落下や受話器が外れていれば元に戻す

(被災地内の通信確保の為に重要な行動)

- ・ラジオやテレビから正しい情報を収集

### 10分後：要援護者への声掛けがスタート

- ・災害時要援護者への活動はこの頃から開始される(災害発生から早くとも10分以降の活動となると想定)



さて「命の灯火を守ることが可能な時間」のタイムリミットまであと5分!果たして何人に声掛けができるのか?一軒ずつインターホンを鳴らし「大丈夫ですか?」と安否の確認。隣家への声掛けでも、隣人がスムーズに対応して3分は要する。そう考えれば地震発生から15分以内の声掛け可能軒数は2軒できるかどうかになる。この貴重な時間を短縮する方法は、地震発生後に隣人がドアを開け「**私の家は大丈夫**」と通知し合うことだ。でも1軒目で家具の下敷きによる救出や負傷者の応急処置が発生したとすれば、2軒目以降の声掛けは不可能となる。やはり現状で考えられている災害時要援護者対策では、かなり無理が生じると思われる。

災害時要援護者になり得る人に「災害発生後、確認に行きます。救助に行きます。一緒に避難します。」等、これらは本当の意味で適切な活動と言えるのでしょうか?日常の平穏中、地震の強い揺れや暴風雨等もおさまれば可能なことでしょう。しかし非日常的な災害発生直後の混乱期を考えると「ほぼ不可能」です。やはり災害時要援護者となり得る人は最低限自分にできることをする意識を、災害発生までに考え準備し活動することが、より大切なことだと言えます。



自分にできることは何だろうか・・・と考えてみましょう。例えば、日頃から近所の人達や地域の人達と挨拶を交わすことも重要な防災活動です。また玄関までの避難路確保を心掛ける上で普段から家の中の片付けや、家具の転倒防止、上からものが落ちてこないよう落下防止をする等、あなたにもできることは山ほどあります。

私達は「**阪神・淡路大震災を忘れてはいけない!**」みなさん思い出してください。果たして「あの地震の揺れの中で他人のことを考える余裕はありましたか?」

今から考え直さなければ、繰り返し多くの尊い命が消えてしまうこととなります。

加古川グリーンシティでは、お互いがお互いを守り合い、「**共に生きる**」ことを目指しましょう。**次号へ**



「誰かが何かをしてくれる」ことを待つのではなく、**あなた自身が「死なない準備をし、死なない行動をとる」**これがあなたの「**災害時要援護者にならない**」本当の防災減災活動です!

みなさん一緒に「**あいさつ運動**」から始めましょう!